

LIBERAL&DEMOCRATIC

自由民主

発行所
自由民主党本部
郵便番号 100-8910
東京都千代田区永田町1-11-23
電話 東京 03(3581)6211(代表)
<毎週火曜日発行>
自由民主党ホームページ URL <http://www.jimi>



特集号

本号外では「国民の生命と財産を守る」と力強く語る石原ひろたかさんにインタビューしました。

内閣総理大臣補佐官 衆議院議員

石原ひろたかさん



昭和39年6月19日生まれ。慶應義塾大学卒。日本興業銀行、みずほ銀行勤務を経て、平成17年初当選、当選5回。外務大臣政務官、内閣府副大臣、環境副大臣を務める。現在、内閣総理大臣補佐官(国家安全保障に関する重要政策、核軍縮・不拡散問題担当)、党離島・半島振興特別委員会委員長、党環境・温暖化対策調査会事務局長。

太平洋の平和と安全を守るために、第10回太平洋・島サミット(PALM10)の準備と運営に当たりました。7月16日より3日間、3年に一度の太平洋・島サミット(PALM10)が東京で開催されました。私は太平洋協力関係省庁会議の共同議長として、その準備と運営に当たりました。今回のPALM10では、太平洋諸島フォーラムの「2050年戦略」に定められた①政治的リーダーシップと地域主義、②人を中心に据えた開発、③平和と安全保障、④資源と経済開発、⑤気候変動と災害、⑥海洋と環境、⑦技術と連結性の7分野について議論し、未来に向けて「共に歩む」関係を確認し、PALM10首脳宣言を採択しました。

なぜ私が総理補佐官としてPALM10に関わったのか。それは中国がこの地域への関与を強めているためです。

例えば、ソロモン諸島は中国と安全保障協定を締結しました。協定の詳細は明らかにされていませんが、私は個人的に非常に危惧しています。もし中国の軍艦がソロモン諸島に随時、停泊する事態になれば、日本とオーストラリア、アメリカの連携にも影響が生じる可能性があるからです。

緊迫する国際情勢の中、PALM10の安全保障上の意義が高まっているのです。

そのためには開催前から、総理特使として参加国を訪問し、各国の首脳と意見交換しました。その際、太平洋諸国はその経済規模や人口、置かれている状況など、わが国の離島と極めて似通った状況にあると感じました。医療・教育の充実、防災、エネルギーの確保、ごみ処理など、離島の課題は全世界で共通なのです。その観点から申し上げれば、私たちが離島振興で培った経験と対策を、世界の島国と共有することで、わが国が世界の島国をリードしていくこともできると思います。

日本の国益を守る離島と、太平洋諸国が情報と経験を共有し、共に豊かになっていく。今回のPALM10はその第一歩なのです。



今回のPALM10には、日本の離島を代表して全国離島協議会の荒木耕治新会長(写真中央)にご参加を頂きました。

総理補佐官として、世界を駆ける!



▲太平洋協力関係省庁会議の共同議長として第10回太平洋・島サミット(PALM10)の準備・運営に尽力。太平洋の18の国・地域の首脳を迎える。▲



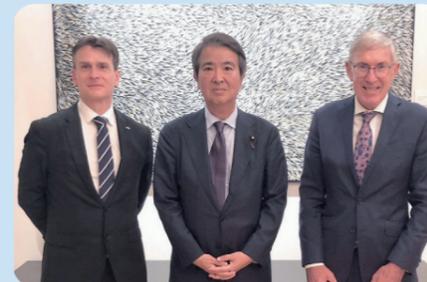
▲トルコを訪問。クルチ大統領首席補佐官と会談



▲第4回核兵器のない世界に向けた国際賢人会議に出席



▲総理特使としてバブアニューギニアを訪問。マラベ首相に岸田文雄総理の親書を手交



▲オーストラリアのヘイハースト大使(左) マクドナルド豪州太平洋担当特使(右)と意見交換



▲国連軍縮諮問委員会の議長を務めるジャマイカのリチャーズ大使と意見交換



▲フィジー共和国と準天頂衛星システムに関する協力覚書を締結



▲総理特使としてソロモン諸島を訪問。新首相に選出されたマネレ首相と会談



▲マーシャル諸島共和国ハイネ大統領との首脳会談に出席



▲総理特使としてナウル共和国を訪問。アデアン大統領と会談



YouTubeはこちら!



友だち登録をお願いします

石原ひろたかさんの政策、政治信条、国会や地元・品川での活動を皆さんにお届けする公式LINEを始めました。友だち登録をして、石原ひろたかさんの生の声を、是非お聴きください。



島は国の宝!!

世界第6位の広がりを持つ日本の排他的経済水域を維持し、独自の文化を育み、豊かな自然を守る離島は、日本の宝です。自由民主党離島・半島振興特別委員会の委員長として、私のライフワークである離島の活性化に全力を尽くします。

私は現在、自民党の離島・半島振興特別委員会の委員長として、党の離島振興政策の取りまとめに当たっています。同時に、国家安全保障担当の総理補佐官としてわが国の安全保障環境を見直せば、離島がいかに重要か、改めて認識させられます。



世界有数の海洋国家であるわが国の排他的経済水域は約447万kmに及びます。これは国土の12倍、世界で6番目の広さです。その4割を伊豆諸島、小笠原諸島が支えています。東アジアの安全保障環境は厳しさを増すばかりです。南シナ海でのフィリピンと中国の対立はますます激化しています。中国が地域の緊張を高める行為を繰り返しているという現実を、私たちは深刻に受け止めなければなりません。国を守る島々を、国を挙げて支えていく必要があるのです。

令和6年度予算で離島の足を確保

一昨年、私は党離島振興特委の事務局長として離島振興法の改正を、本年は小委員長として小笠原振興特措法の改正を手掛けてきました。改正法に離島振興のポイントをしっかりと書き込んだことにより、令和6年度予算においても、離島振興に必要な予算額を確保することができました。

「東京島酒」を18年ぶりにGI指定

皆さんは地理的表示(GI)制度をご存じでしょうか。GI制度とは、仏のシャンパンや英のスコッチのように、決められた基準を満たす製品にだけ、特定の産地を名乗ることを許可し、特産品のブランドを保護する制度です。



今回、焼酎では18年ぶりに「東京島酒」がGI指定を受けました。今後は、麦麴だけを使い、国産のさつまいも・麦を原料に、伊豆諸島の水を使って、伊豆諸島でつくった焼酎だけが「東京島酒」を名乗ることができます。

島の産品は輸送コストが高く、他の産地と価格で競争することは困難です。高品質の産品をブランド化し、少々値段が高くても消費者に選んでもらう。そんな戦略が必要です。その第一歩が今回のGI指定なのです。東京島酒が、いま全国の注目を集めています。

現状、最も急がれるのは、物価高騰対策です。燃料・エネルギー価格、原材料費、輸送費、人件費。全てが値上がりし、島の暮らしを直撃しています。早急な対策が必要です。

その中でも、今回の予算で、私が特に力を入れたのが離島航路・航空路の維持です。離島航路・航空路においては、人口減少により利用者は減り、燃料費は高騰しています。他方で住民の欠かせぬ足として運賃の値上げは難しく、どの会社も厳しい経営状況に追い込まれています。

今回の予算においては、経営安定化のため、離島航路については10億円、航空路については4億円の予算を措置し、離島の足をしっかりと維持しました。もちろん、島民の皆さんへの島民割引のための予算は別枠で確保しています。

離島への移住・定住の促進

日本はいま人口減少の危機にさらされています。離島はさらにその傾向が強く、どの島でも大幅な人口減少が続いています。地域社会を維持していくためにも、離島への移住・定住を促進していくことが重要です。コロナ禍により日本全国にリモートワークが急速に拡がりました。そのため転職せずに移住することも可能な時代を迎えました。これは離島にとって大きなチャンスと言えます。この好機を活かすために、離島におけるデジタル環境の一層の整備、移住者向けの住宅やシェアオフィスの整備など、ソフト・ハードの両面からの対策を進めていきます。

初当選以来、私は一貫して離島振興に取り組みできました。自民党の離島政策の責任者となりました。その活動をさらに強化していくことをお約束します。

内閣総理大臣補佐官
衆議院議員

石原ひろたか

石原ひろたかさんと共に
東京都の力をフル活用して
離島の活性化に尽くします。



東京都議会議員
三宅正彦

令和6年度の主な伊豆・小笠原関係予算

主な町村道の整備(国交省)	1.19億円
防波堤や岸壁など港湾整備(国交省)	38.1億円
海岸整備(国交省)	2.19億円
火山砂防対策(国交省)	2.1億円
簡易水道など上下水道整備(国交省)	6.4億円
廃棄物処理施設整備(環境省)	5300万円
防災無線のデジタル化など防災対策(国交省)	7700万円
産品移出・原材料移入に係る輸送費支援(国交省)	400万円
冷蔵コンテナから冷凍コンテナへの更新(国交省)	1800万円
移住・定住・交流促進(国交省)	1.65億円
離島航路・航空路維持(国交省)	14億円
離島航空運賃引下げ(内閣府)	39%~85%の島民割引を実施
ガソリン高騰対策(経産省)	1リットルあたり10円~70円引下げ
国立公園施設整備(環境省)	5400万円
雇用拡充(内閣府)	2400万円
文化財保護(文化庁)	1.4億円
農業農村整備(農水省)	2.2億円(R5実績)
治山・森林整備(農水省)	3.5億円(R5実績)
水産基盤整備(農水省)	17.9億円(R5実績)
漁業地域再生支援(農水省)	1900万円(R5実績)
携帯電話・光ファイバー整備、維持管理(総務省)	3.5億円(R5実績)
診療所整備など(厚労省)	700万円(R5実績)
高校生就学支援(文科省)	300万円(R5実績)
小笠原関係	14億円(R6当初+R5補正)